第32回 BELCA賞ベストリフォーム部門受賞建築物選考評

万葉公園 湯河原惣湯 Books and Retreat 玄関テラス

所　在　地：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上566番外
竣　工　年：1984年
改　修　年：2021年
用　　途：［改修前］観光会館（公民館、ホール、展示室）
［改修後］観光案内所、事務所
建物所有者：湯河原町
改修設計者：株式会社 アール・アイ・エー、有限会社 金箱構造設計事務所（構造）、株式会社 オフィスカコ設備設計（設備）、クジラ・カナデ設計事務所（ランドスケープ）
改修施工者：小野建設株式会社、株式会社 ダイナナ（電気）、株式会社 ワールドエンジニアリング（機械）

湯河原温泉場区は近年、観光客数の減少やそれに伴う宿泊施設の閉鎖や取り壊し、地域コミュニティの機能低下など、かつての著名温泉場としてのポテンシャルが大きく低下してきている。本建物はその玄関口に位置する観光会館を大胆に減築してリフォームし、広場と連携する強力な観光拠点として再生させたものである。

それは単なる一建物のリフォームにとどまらない。平成28年に湯河原町と住民による温泉場再生に向けての話し合いがスタート、観光客が立ち寄る居場所づくりが強く求められる中、万葉公園再生のコンセプトが「湯河原温泉場の屋外リビング＆ガーデン」と位置付けられたことに端を発する。官民が強く連携して公園エリア全体の整備を行なう中で、そのゲートウェイとなるのが本建物である。

湯河原町の公共施設整備の基本方針として新耐震建物は継続して活用することとなっていることから、新耐震の旧公民館は4階建てを2階に減築して、1階に観光案内機能とカフェ、2階にワークステーション機能というわかりやすい形でリフォームしている。一方で旧耐震のホールも全面的に解体はせず、既存基礎を前庭テラスの基礎として活用するなど、建設工事によるロスを大幅に低減させている。

再生した新観光拠点では、万葉公園整備のコンセプトにふさわしく、自然を活かした豊かな屋外空間が連鎖する。旧ホール棟跡の大規模な前庭玄関テラス～そこに到るレベル差を細やかに刻むステップテラス～堀口捨巳設計の茶室「万葉亭」へと続くデッキテラス～特徴的な円形平面が自然の緑や滝の落水に向けて大きく開くワークテラスなど、まさに万葉公園のゲートウェイとして自然に連続する屋外リビングを創り出している。また玄関テラスの下部には電気・給水設備などが整備されており、テラスの多目的な利用を支えている。

建物の外観は、厳しい自然環境に耐えられる素材として、亜鉛めっきステンレスを屋根、壁共に採用した開放的なデザインとし、リフォーム前の建物の印象を一新している。外観の大きなインパクトでもある2階の軒天井に加え、各所に配置された木製家具はすべて神奈川県産を利用し、徹底的に地産地消を目指している。そして玄関テラスやステップテラスは、既存樹木をできるだけ残し、その他を湯河原の山々に自生する植物で捕植するなど、きめ細やかなランドスケープデザインにより、心地よいスケールでさまざまな居場所を創り出すことに成功している。

また、長期修繕計画においては日々の維持管理が重要と捉え、万葉公園での収益施設を含むPARK-PFI事業者のノウハウを取り入れた運営をはかっている。

本プロジェクト全体を貫く、万葉公園の自然を活かした豊かな内外部空間の創出は、アフターコロナの公共空間にふさわしい好事例である。